

肝胆膵外科手術後出血に対する母動脈塞栓に伴う虚血合併症の検討

2005年から2016年までに肝臓・胆嚢・胆管・膵臓の手術後の出血のために動脈塞栓術を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「肝胆膵外科手術後出血に対する母動脈塞栓に伴う虚血合併症の検討」という研究を行います。この研究は、2005年1月1日より2016年12月31日までに日本医科大学付属病院放射線科にて、肝胆膵手術後の出血のために総肝動脈あるいは固有肝動脈の塞栓術を受けられた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：肝胆膵外科手術後出血に対する母動脈塞栓に伴う虚血合併症の検討

研究期間：2017年3月3日（倫理委員会承認日）～2018年1月14日

研究責任者：日本医科大学付属病院 放射線科 安井 大祐

(2) 研究の意義、目的について

肝胆膵手術後の合併症として、胆汁や膵液がお腹の中に漏れ出すことがあります(胆汁漏、膵液漏)。これらの液体には体の組織を溶かす作用があり、稀ではありますが比較的太い血管(総肝動脈・固有肝動脈)を障害し、動脈瘤を形成することがあります。動脈瘤が破裂すると致死的な腹腔内出血(お腹の中への出血)を生じることがあるため、速やかな治療が必要となります。標準的な治療としては、障害された動脈を金属コイルなどで詰める方法(塞栓術)があります。総肝動脈や固有肝動脈は肝臓を栄養しており、塞栓術後に肝臓への血流が低下する危険性がありますが、多くの場合胃や横隔膜などを栄養する血管から血流が回り込んでくることにより肝動脈血流は保たれます。しかし稀には肝臓への血流が不足することで、肝臓の機能障害を来すことがあります(虚血合併症)。本研究の目的は、虚血合併症のリスク因子を解明することです。

(3) 研究の方法について

2005年1月1日より2016年12月31日までに日本医科大学付属病院放射線科にて、肝胆膵手術後の出血に対して、総肝動脈あるいは固有肝動脈の塞栓術を受けられた患者さんのカルテやCT画像を評価し、虚血合併症のリスク因子を検索します。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 放射線科 助教 安井 大祐

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：4275

メールアドレス：ledhotcp@nms.ac.jp